

大豆のウコンノメイガの多発に注意

～発生状況（葉巻）を確認し、8月上旬までに防除を～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

7月下旬の巡回調査（16地点）において、葉巻発生地点率は100%（平成48.4%）で高く、茎当たり葉巻数は0.3個（平成0.1個）が多く、県南部において要防除水準*を超えるほ場が確認された。また、葉巻発生株率は27.0%（平成6.6%）で高く、茎当たり卵塊数は0個（平成0.0個）でやや少なく、100m当たり叩き出し成虫数は1.0頭（平成0.7頭）でやや多かった（表-1）。

県内6地点の予察灯における7月1～4半旬までのウコンノメイガの総誘殺数は22頭（平成6.6頭）で、過去10年と比較して最も多かった（図-1）。

以上のことから、今後、ウコンノメイガによる食害が拡大すると予想されるため、以下の防除対策を行う。

※要防除水準：7月6半旬にはほ場全体で40～60茎の葉巻数を調査して、茎当たり葉巻数が1.3個

2. 防除対策

- 1) ほ場を観察してウコンノメイガ幼虫による葉巻の発生状況を確認する（図-2、3）。若齢幼虫による葉巻は葉の縁の一部を折り曲げる程度なので、見落とさないように注意する。
- 2) 生育の旺盛なほ場や葉色の濃いほ場では、多発する傾向があるので特に注意する。
- 3) 要防除水準を超えたほ場では、8月上旬までにスミチオン乳剤、カスケード乳剤などで防除する（表-2）。

3. 資料

表-1 巡回調査結果（7月下旬）

	葉巻発生 地点率（%）	茎当たり 葉巻数（個）	葉巻発生 株率（%）	茎当たり 卵塊数（個）	100m当たり 叩き出し成虫数（頭）
2023	100.0	0.3	27.0	0	1.0
平成	48.4	0.1	6.6	0.0	0.7
概評	多	多	多	やや少	やや多

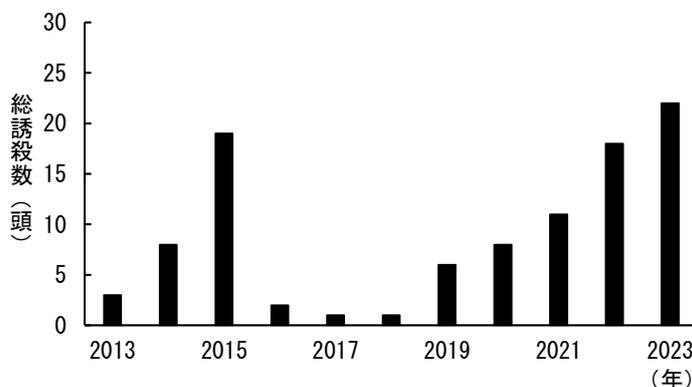


図-1 予察灯（6地点）におけるウコンノメイガ成虫の総誘殺数（7月1～4半旬）



図-2 ウコンノメイガ幼虫



図-3 ウコンノメイガによる葉巻

表-2 ウコンノメイガの防除薬剤

農薬名	希釈倍数	本剤の使用回数	散布液量	散布時期
カスケード乳剤	4,000倍	2回以内	150~300 L / 10a	7月下旬~8月上旬
スミチオン乳剤	1,000倍	4回以内		
トレボン乳剤	1,000倍	2回以内		
プレバソンフロアブル5	4,000倍	2回以内		

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>